

沼田城(倉内城)(市指定史跡, 続百名城)(群馬県沼田市倉内)(沼田城址公園)

沼田城（ぬまたじょう）は、上野国利根郡（現：群馬県沼田市）にあった日本の丘城。幾つかの守護城に囲まれた堅城である。沼田氏の居城として建築され、戦国時代後期から江戸時代初期にかけて真田氏の沼田領支配の拠点として機能した。沼田藩の藩庁。はじめは倉内城と称した。

概要

群馬県沼田市倉内にあり、利根川と薄根川の合流点の北東、河岸段丘の台地上に位置する丘城。二つの川側は約 70m ほどの崖となっており、典型的な崖城でもある。

沼田は北関東の要衝であり、軍事上の重要拠点として上杉氏・後北条氏・武田氏といった諸勢力の争奪戦の的となった。本能寺の変後は真田信幸の支配城として、後北条氏と争った。

江戸時代に城主は真田家 5 代、天領、本多家 3 代、黒田氏（譜代大名）2 代を経て、土岐氏 12 代目に明治維新を迎えている。真田氏時代には 5 層の天守や 3 層の櫓が建てられたが、時代とともに縮小し、本多氏時代には三の丸を改修して館を建てる程度の規模になった。

明治維新後、1916 年に旧沼田藩士の家の久米民之助によって城地が購入され整備された。1926 年には沼田町（沼田市）に寄付され、現在は沼田公園となっている。

歴史・沿革

- 1532 年 - 沼田顕泰により築城され、沼田氏の拠点となる。
- 1560 年以前 - 山内上杉氏没落と後北条氏による上野進攻のなかで、どちらに属するかを巡り沼田氏がお家騒動を起こす。後北条方側が勝ち後北条氏出身の沼田康元が城主となる。
- 1560 年 - 長尾景虎（上杉謙信）が越山し沼田城を落とす。沼田顕泰は沼田の国人（沼田衆）を率いる立場になったが城は景虎の直属（城代支配）となる。
- 1569 年 - 『加沢記』ではこの年に沼田氏のお家騒動が起こり、隙をついて上杉氏が沼田城を支配し、本庄秀綱による城代支配になる。後北条氏との関連は記述されない。ただし後世史料のため年代などが疑問視される。
- 1578 年 - 謙信死後に起こった御館の乱により沼田城を後北条氏が制圧。城代に猪俣邦憲、金子泰清らを置く。同年、甲越同盟の成立で上杉景勝が武田氏の沼田攻略を承認し、真田昌幸が攻略の命を受ける。
- 1580 年 - 昌幸が城代の泰清に調略を仕掛け、また昌幸の叔父・矢沢頼綱が沼田に攻め入ってこれ無血開城させ、武田氏が沼田を支配化におく。同年、後北条方と由良氏の支援を得た、顕泰の子・沼田景義が沼田城奪還を目指して挙兵するが、昌幸の謀略により、泰清に殺害される。これによって沼田氏は滅亡する。
- 1582 年 - 織田氏により武田氏が滅亡し、その功により上野一国を拝領した滝川一益の重臣・滝川益重の城となる。その後、本能寺の変を経て、後北条家に降った真田昌幸の支配となる。直後に天正壬午の乱が起こり、徳川氏と後北条氏の間で沼田領帰属問題が持ち上がるが、昌幸はいずれの提案も拒否し、上杉氏の傘下に入る。これは後年の徳川氏との上田合戦や後北条氏による度重なる侵攻を招くことになるが、いずれも退ける。
- 1589 年 - 豊臣秀吉の裁定により後北条氏の支配となり、猪俣邦憲が再び城代となる。しかし、同年に邦憲が昌幸の名胡桃城を略奪したことで、豊臣氏による小田原征伐が起こる。
- 1590 年 - 北条征伐の戦後処理において、沼田城は昌幸の長男・真田信幸が支配する。
- 1597 年 - 信幸が城郭整備をする。
- 1600 年 - 関ヶ原の戦いにて、東軍についた信幸（以降信之に改名）が上田領も継承し、沼田と合わせ 9 万 5 千石の上田藩として立藩する（信之は引き続き沼田城を本拠とする）。

- 1615 年 - 大坂夏の陣を期に、信之は上田に本拠を移す。沼田城は、長男・信吉が城主となる。
- 1622 年 - 信之が松代藩 13 万石へ加増移封。沼田領は引き続き真田領とし、松代藩の分領として継続。
- 1638 年 - 信吉の死後、その嫡子である熊之助が跡を継ぐが早世し、信之の次男・信政（信澄）が沼田領を継承する。
- 1656 年 - 信之が隠居し、信政が松代藩藩主となる。沼田領は、信吉の子・信利が継承。
- 1658 年 - 信政が死去し、その相続を巡ってお家騒動が起こる。これを期に沼田領は沼田藩 14 万 4 千石（実質は 3 万石）として独立し、信利が初代藩主となる。
- 1681 年 - 信利の暴政と江戸両国橋架け替えの用材調達の遅延を理由に改易され沼田藩は廃藩にされる。以降 1703 年まで天領となる。
- 1682 年 - 城が破却され、堀も埋められる。
- 1703 年 - 本多正永が入封し、沼田藩 2 万石として再興される。以降、黒田氏、土岐氏と沼田藩の藩庁として存続するが、城の本格的な復興はなされずに明治の廃藩置県に至る。
- 1916 年 - 旧沼田藩士の家の久米民之助が城地を購入し、公園として整備。1926 年に沼田市へ寄贈され、現在は沼田公園となっている。

小松姫の逸話

小松姫（稲姫）は徳川四天王の本多忠勝の娘であり真田昌幸の長男・真田信幸の妻である。

関ヶ原の戦いの直前、下野国犬伏で真田父子三人が合議し、父昌幸と信繁は西軍、信之は東軍につくことが決した。昌幸は犬伏を発ち、上田への帰路桐生辺りで「沼田に寄り孫に会いたい」言い出し、そのまま沼田城を訪れた。小松姫は「たとえ舅であっても敵である」ということから、武装した姿で対応し城門を開かず追い返した。後に、自ら子供をつれて昌幸のもとを訪れ、舅の願いを叶えた。このことについて、昌幸・信繁は大いに感心したと言う。

一方で昌幸には沼田城に立ち寄りそのまま城を奪取する意図があったとも言われ、小松姫はそれを見越した上で穏便に解決したとも言われる。

遺構

現存建物として城門が群馬県川場村に 1 棟、川場村以外に 3 棟ほどが移築されている。

また本丸跡に鐘櫓が復元されているが、この鐘櫓の鐘は後世のものではなく、1634 年に真田信吉が鑄造させた「城鐘」そのもので、群馬県指定重要文化財である。この鐘は廃城ののち寺社で保存されていたが、旧沼田町役場敷地内の「時鐘（ときのかね）」に流用され、その後本丸内に鐘櫓として復元されたのである。

Wikipedia による

